

第2分科会 各教科等を合わせた指導 作業学習

～ 生徒の実態に即した作業学習 ～

指導・助言 さいたま市教育委員会特別支援教育室

主任指導主事 篠崎翔太

実践提案 支援学級 さいたま市立岸中学校 馬目喜芳

活動報告 支援学校 県立特別支援学校作業学習部会

1 作業学習を取り巻く状況

学習指導要領では、「自立と社会参加に向けた充実」が挙げられ、カリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に行うことや、キャリア教育の充実を図ることが示されている。作業学習においても、各教科等と同様に、「自立と社会参加」を意識した取組を行う必要がある。子どもたちの実態に即した作業学習を行うためには、丁寧に実態把握を行うことはもちろんだが、改めて子どもたちに「何を学ばせたいのか」、「何を身に付けさせたいのか」ということを整理する必要がある。さらに各教科等との関連を意識し、「活動優先」ではなく、「子どもたちの実態を踏まえた」作業学習を行い、将来を見据えた教育活動の充実を図ることが求められている。

2 提案実践について

(1) 良かった点、特筆すべき点等

人とのつながりを意識した農作業では、専門的に取り組まれている方の仕事の内容や、仕事に対する心構えなどを見聞きすることで、子どもたちが働くことについて興味を持ち、より主体的な学びにつながることを期待できる。農作業を通して様々な人と関わることにより、人との関わりの幅を広げることもつながったのではないかと思う。

製品作りから頒布会までの取組では、子どもたちが得意な作業工程を選択し、一つの工程を丁寧に取り組むということが、有効な取組である。苦手なことを克服するという視点も大切だが、将来の社会参加を見据えた上では、自分がどんなことが得意なのかということを理解し、伸ばしていくことも必要である。子どもたちの実態に即して、得意な工程の精度を上げていくことで、より達成感を味わい、知識や技能の着実な習得につながることを期待できる取組である。

(2) 改善点、アドバイス

各教科等の学習と各教科等を合わせた指導のバランスをとり、関連を意識することは、重要な視点である。各教科等を合わせた指導は、あくまでも各教科等の目標を達成するために行う指導の形態である。作業学習においても、各教科等との関連を意識することで、子どもの実態に即した指導計画を作成することにつながり、より効果的な指導を実現することができる。

今回の実践の中では、ペッパーくんを活用した取組が行われていたが、作業学習においても、ICT機器の活用も大変重要な視点である。子どもたちが、作業学習の中でもICT機器を使いこなすことにより、将来の職業生活の広がりにつながる。積極的にICT機器を取り入れながら、使う場面や活用の仕方についての研究を深め、子どもたちの実態に即した実践につなげていく必要がある。

(3) 実践者への激励メッセージ

馬目先生におかれましては、今回このような形で、作業学習に係る実践の御提案をしていただき、ありがとうございました。馬目先生の子どもたちや作業学習に対する熱い想いが伝わってくる内容でした。子どもたちの将来の姿をイメージしながら、授業作りができるかどうかというのが大切です。引き続き、熱い情熱を持ち続けながら、多くの実践を積み重ねてください。